

アグリ・フード

2019 秋号
サポート

AGRICULTURE & FOOD BUSINESS SUPPORT * AGRICULTURE & FOOD BUSINESS SUPPORT * AGRICULTURE & FOOD BUSINESS SUPPORT * AGRICULTURE & FOOD BUSINESS SUPPORT * AGRI

JFC 日本政策金融公庫 農林水産事業本部



特集企画 『販路の開拓、その一手』



<https://www.agri-foodexpo.com/>

目次

Contents

アグリフードEXPO	第14回「アグリフードEXPO東京2019」開催 3
	EXPO会場で直撃クエスチョン 4
	第13回「アグリフードEXPO大阪2020」開催のお知らせ 5
輝く経営大賞	2019年度「アグリフードEXPO輝く経営大賞」受賞者決定 6
海外展開支援	トライアル輸出支援事業の活用事例 株式会社ファームランド牧 8
	海外商談レポート「 ^{タイフェックス} THAIFEX2019」(タイ・バンコク) 9
	コラム：アジア太平洋地域の農業金融発展に協力
	解説／海外展開支援 10
デザイン戦略	商品に顔を付ける 11
公庫本支店窓口	公庫本支店窓口のご案内 12

●表紙／「アグリフードEXPO輝く経営大賞授賞式」

8月21日に開催された2019年度「アグリフードEXPO輝く経営大賞」授賞式にて。関連記事は、6頁より

現場報告

EXPO仲間令和最初の大集結

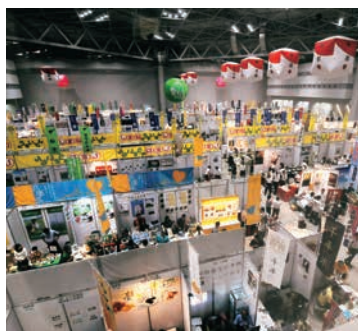
プロ農業者たちの国産農産物展示商談会

— 第14回アグリフードEXPO東京2019 —



その手が つかむ EXPO

この手と、あの手が
手を結び
国産の農産物をつなぐ
アグリフードEXPOの
使命です。



開催結果

- 出展者数: 665先
 - 登録来場者数: 11,831人
※2日間にわたってご来場いただいた方は初日のみカウント。
 - 商談引き合い件数: 7,234件
※商談会終了後も継続して商談を行う予定の件数。数値は出展者アンケート結果に基づきます。
- 開催日: 8月21日(水)、22日(木)
於: 東京ビッグサイト(東京都江東区)

EXPO会場で直撃クエスチョン

出展者の皆さま、ご協力ありがとうございました。

有限会社ジェリービーンズ

(千葉県／養豚、加工・販売)

専務取締役 内山 裕貴さん

Q アグリフードEXPOで、「あるお披露目」をなされたそうですね。

信頼する「アグリフードEXPO」で、制作した会社ロゴと一新した自社ブランド「元気豚」のマークをお披露目しました。ロゴの枠から突き抜けた「J」で未来への挑戦を表現し、マークには「安全・研究・健康・笑顔・元気」という信念と願いを込めています。



「これからも安全・安心・おいしい豚肉で多くの方に笑顔と元気を届けたい」と内山さん(左)は抱負を語る

株式会社玉津柑橘倶楽部

(愛媛県／果樹(ミカンなどカンキツ)、加工・販売)

代表取締役 原田 亮司さん

Q 昨年の西日本豪雨後に若手農業者が立ち上げた企業ですね。加工第一号はジュースですか。

ミカンジュースは災害復興にクラウドファンディングを使った際の返礼品にと開発しました。ラベルを愛媛出身の墨絵アーティスト茂本ヒデキチさんが描いてくれました。地域の想いが詰まったジュース、EXPOで販路を拡大し地域に貢献します。



社員の皆さんの名刺やTシャツには「諦めない強さは、いつだってみかんが教えてくれた。」の文字が

小森ぶどう園

(福島県／果樹(ブドウ)、加工・販売)

営業部長 小森 治郎さん

Q アグリフードEXPO東京への出展は7回目です。きっかけはどういったことだったのですか。

規格外のブドウで作ったジュースを持ち込んだのが最初です。バイヤーさんからいい評価をいただき需要があることが分かって、本格的に加工に踏み出しました。現在ではワインも手掛けており、加工用のブドウも作っています。



「ブドウの味には絶対の自信があります！」と意気込む小森さん(右)

出展者の 悩みを 解決します



「商談が成約となっても、物流がネックとなり、取引をスタートできない」。そのような声を受け、今回、農産物物流の専門家2人を招いて「物流相談コーナー」を新たに設置

しました。

「小口の農産物をどのようにコストを下げて配送できるのか教えてほしい」「県外への配送ルートを構築する方法についてアドバイスしてもらいたい」といった出展者からの相談に丁寧に応えていました。

また、「海外展開相談コーナー」ではJETRO(独立行政法人 日本貿易振興機構)と貿易商社1社が輸出に関するさまざまな相談にも対応しました。

お知らせ

EXPO東京から EXPO大阪へ

日時: 2020年2月19日(水)・2月20日(木)
(10時～17時) (10時～16時)

会場: ATCアジア太平洋トレードセンター
(大阪市住之江区南港北)

[募集概要]

第13回 アグリフードEXPO 大阪2020

プロ農業者たちの国産農産物・展示商談会

募集について

■出展対象

- ①農業者
国内で農業を営む方
- ②食品製造業者
国産農産物を主原料とする食品を主として扱う国内食品製造業者

■出展小間料(税込み)

1小間(2.0m×2.0m)あたり99,000円、初出展する農業者限定のチャレンジコーナー(1.5m×1.5m)は66,000円

■募集小間数

300小間

■来場対象

小売業、商社・卸売業・流通業、外食業、中食業・給食産業、食品製造・加工業、健康食品・美容産業、宿泊業(ホテル・旅館業)・旅行業など
※当日登録制です。一般の方は入場できません。

申込締切 11月8日(金)

300小間に達し次第、申込受付を終了します。

アグリフードEXPO輝く経営大賞

「アグリフードEXPO輝く経営大賞」は、地域の農業・食品産業の担い手としてふさわしく、「アグリフードEXPO」への出展をきっかけに、優れた経営を実現している経営体を表彰するものです。

2019年度「大賞」受賞者

有限会社 舟形マッシュルーム

(代表取締役 **長澤 光芳さん**)

山形県最上郡舟形町

株式会社 堀内果実園

(代表取締役 **堀内 俊孝さん**)

奈良県五條市

(五十音順)



授賞式にて。左から長澤光芳さんと長男の大輔さん、堀内俊孝さんの妻の奈穂子さんと堀内さん



「アグリフードEXPO2019」出展ブースの様子

アグリフードEXPO輝く経営大賞

日本公庫農林水産事業(旧農林漁業金融公庫)が2005年度に創設し、全国各支店から候補者の推薦を受け、社外の有識者による選定委員会が決定します。

選定委員(順不同、敬称略)

大泉 一貫(選定委員会会長)／宮城大学名誉教授 青山 浩子／農業ジャーナリスト 梅本 雅／農業・食品産業技術総合研究機構総括調整役 荏林 幹太郎／学習院女子大学国際文化交流学部教授 藤田 毅／有限会社フジタファーム代表取締役 松田 恭子／株式会社結アソシエイト代表取締役 森 剛一／アグリビジネス・ソリューションズ株式会社代表取締役、税理士

大賞

有限会社 舟形マッシュルーム

(山形県最上郡舟形町)

代表取締役 長澤 光芳さん

経営概要：国内でも数少ない自社培地によるマッシュルーム生産者(ハウス面積8400㎡)。年間約1,450トンのマッシュルームを生産、国内シェアは約20%を占め全て直接販売する。製造したピクルスやカレーなど加工品を自社農場内の直売所やオンラインショップで販売するほか、レストランを開設するなど6次産業化にも積極的に取り組む。

EXPO出展回数：22回(東京11回、大阪11回)

■受賞のポイント

- 二百数十社ある取引先の過半数をEXPOを通じて開拓した。
- マッシュルーム加工品の製造や農場内に直営レストラン「マッシュルームスタンド舟形」の開設など6次産業化の取り組みにより、雇用創出や地域活性化に貢献している。
- バイヤーや取引先などの声を受けて食の安全や環境保全に取り組み、JGAP、有機JAS認証(農産物)、生産情報公表JAS認証(農産物)やISO9001-HACCPを取得するなど、顧客の安心・安全ニーズに真摯に対応している。

■受賞の言葉

EXPOで販路を開拓し、18年前の法人化当初に比べ生産量10倍、ハウスは5倍に拡大できました。現在、特にドライスープ加工に力を入れています。受賞を励みにさらなる発展を目指します。



大賞

株式会社 堀内果実園

(奈良県五條市)

代表取締役 堀内 俊孝さん

経営概要：100年以上、6代続く果樹農家で、カキを中心にウメ、カリン、ブルーベリー、スモモを無化学肥料により栽培する(10ha)。ドライフルーツやジャム、シロップなどの加工品製造や直営店運営などの6次産業化を積極的に推進。国内の百貨店や生協に販売するほか、台湾や香港へ加工品の輸出にも取り組む。

EXPO出展回数：14回(東京4回、大阪10回)

■受賞のポイント

- EXPOを活用し、現在の主要販売先である百貨店などとの取引を開始した。
- EXPO出展時のバイヤーの意見や他の出展者の取り組みを参考に、商品を開発・改良し商品のブランド力を向上、経営の発展につなげた。
- 完熟果物を手軽に楽しんでもらおうと、スムージーやサンドウィッチなどを扱うスタンド形式のフルーツパーラーを2017年より奈良と大阪に展開(東京にも今年11月開店予定)。販売を通じて、奈良県吉野地域の魅力をPRしており、地域農業をけん引することが期待される。

■受賞の言葉

受賞は共に歩んできた妻やいつも支えてくださる方々のおかげです。EXPOは卸の勉強になります。加工品輸出、大都市での直営店運営など課題は山積していますが、明るく笑顔で乗り切っていきたいです。



トライアル輸出支援事業の活用事例

売り上げの2割が海外での販売
きっかけは香港への『トライアル輸出』株式会社ファームランド牧 代表取締役 牧 信一郎さん
(鹿児島県志布志市)

設 立 2009年

事業内容 アールスメロンの生産・販売

輸出を試してみたい

株式会社ファームランド牧は、農薬の使用を控え、化学肥料を一切使わない環境に優しい栽培をモットーにアールスメロンを生産しています。

6年前の2013年、多様な販路を持ちたいと考えた牧信一郎さん(51歳)は、海外への事業展開について日本公庫鹿児島支店に相談。

「輸出に興味はあるが、手続きをおこなう人脈やノウハウがない」「自社の商品が海外のバイヤーから見て魅力があるのか知りたい」と話す牧さんに対し、公庫は「トライアル輸出支援事業」の利用を提案しました。

「輸出を試すことができる」。そこに魅力を感じたという牧さんは「トライアル輸出支援事業にチャレンジすること」を決意し、鹿児島県から距離が近く輸出入の規制など比較的ハードルが低い香港を輸出希望先に定めました。

日本公庫は複数のトライアル輸出支援事業委嘱先の中から香港向けの青果物の輸出を手掛

ける貿易商社に打診。牧さんは貿易商社との綿密な打ち合わせ後、香港へメロンのトライアル輸出を実現させました。

国内に続く販路の確保

香港へのトライアル輸出の結果、貿易商社からのフィードバックとして、香港での売れ行き状況や「甘くておいしい」「高級感がある」など現地の反応を聞いた牧さん。手応えを感じマカオへのトライアル輸出もしています。その後牧さんは、海外見本市のジャパンパビリオン内「公庫ブース」に参加したり、現地に赴いて商品をPRしたりと継続的に海外での販路開拓に努め、現在では海外での売り上げが全体の約2割を占めるまでになりました。

「トライアル輸出支援事業は、手続きや販売のサポートが受けられ、輸出の一連の流れを経験できることがメリットだと思います。今後もアジアを中心とした輸出に力を入れ、国内はもちろん、海外のお客さまにもおいしいメロンを届けたいです」と牧さんは語っています。

■ 貿易商社より

マカオへのトライアル輸出を支援し、現在も取引引きを継続しています。

メロンの品質はもとより、納期を厳守し現地バイヤーの要望に誠意を持って対応・改善していることなどもマカオでの高い評価につながっています。

(和偉食品貿易有限公司 佐藤 友和さん)



メロンのハウスにて

東南アジア最大級の食品見本市 「THAIFEX」で輸出を後押し

ジェットロと連携した輸出支援

タイ・バンコクで開催された「THAIFEX 2019」に^{タイフェックス}出展した「公庫ブース」での様子をご報告します。

東南アジア最大級の国際総合食品見本市「THAIFEX 2019」は、5月28日～6月1日にバンコク郊外の大型展示施設インパクトアリーナで開催。「オーガニック」「ハラル」など、11のテーマ別ゾーンで構成され、世界42の国と地域から2700社・団体を超える出展があり、106カ国・地域から6万7136人のバイヤーが訪れました。

日本公庫は昨年に引き続き、独立行政法人日本貿易振興機構（ジェトロ）が運営するジャパンパビリオン内に「公庫ブース」を設け、肉用牛の生産者とコンニャクの加工を手掛ける食品企業の2社と合同で出展しました。公庫は現地のバイヤーを紹介するほか、ジェトロと連携しながら出展前の準備に始まり、会期中のサポート、その後のフォローまで一貫した支援をすることで販路拡大の後押しに努めました。

人気の日本産食材がチャンスに

参加者からは「タイの大手バイヤーと商談し、タイ向け輸出の検討を進めることができた」「タイ周辺国の大手輸入業者とも商談ができ、ASEAN諸国への販路開拓にもつながる貴重な機会だった」との声が聞かれました。

ジャパンパビリオンには北海道から鹿児島までの28都道府県から72社・団体が出展し、日本産食品を売り込みました。ジェトロによるとタイ国内では日本食レストランが3,000

店舗を超え（2018年8月時点）、日本食や日本産食品が高い人気を得ています。

国産農水産物・食品の輸出促進が国の重点的な取り組みに位置付けられる中、日本公庫は引き続き、お客さまの海外展開を積極的に支援していきます。

（情報企画部 百田 裕樹）



日本産食材を求めて多くのバイヤーが訪れた

アジア太平洋地域の 農業金融発展に協力

日本公庫は、6月6日、「第71回アジア太平洋農村・農業金融協会（略称：APRACA）理事会」をホスト機関として開催。日本での開催は約20年ぶりになります。理事会では、今後のAPRACAのあり方を定める「6カ年計画」の策定について協議されたほか、一年間のさまざまな活動報告がありました。

また同日開催の国際フォーラムでは、「天災からの復興における金融機関の役割」をテーマに3つの発表がありました。

※APRACA…アジア太平洋地域の農村・農業制度の改善を図るため、1977年に設立された国際機関。日本では日本公庫が唯一の加盟機関です。

解説

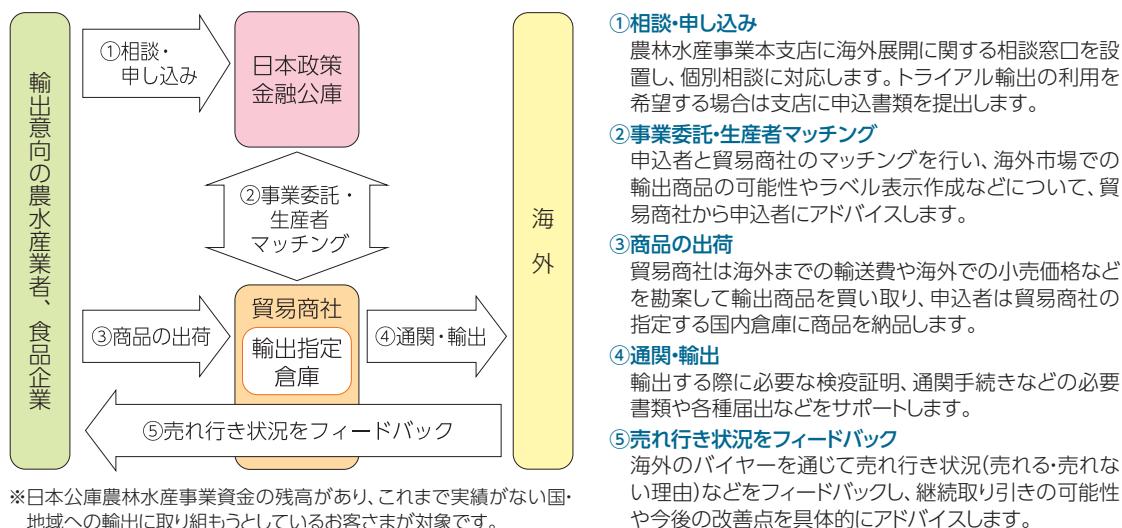
国産農水産物・食品の輸出を支援！

農林水産業の成長産業化に向けて、国産農林水産物・食品の輸出促進が国の重要政策に位置付けられています。日本公庫農林水産事業は農水産物・食品の輸出ノウハウを持つ貿易商社やジェトロなどと連携し、海外販路開拓を後押しするためのさまざまなメニューを用意しています。

海外展開支援

(Ⅰ) トライアル輸出支援事業(貿易商社との連携)

初めて輸出に取り組む農水産業者・食品企業が輸出の一連の流れを経験し、海外市場におけるニーズを把握することを目的にした輸出支援事業です。公庫は提携する貿易商社と、輸出の事前準備から手続き、販売までをサポートし、海外での売れ行き状況をフィードバックします。



(Ⅱ) 商談の場を提供・商談サポート

ジェトロなどと連携し、海外見本市や国内外商談会の場を提供しています。必要に応じて商談会や見本市へ同行し、商談サポートをします。

【主な商談会・見本市】

- アグリフードEXPO東京・大阪でのジェトロ輸出相談会
- 海外見本市(ジャパンパビリオン)に日本公庫顧客団体ブースを設置
- アジアで開催されるバイヤー商談会

(Ⅲ) 輸出関連セミナーの提供

ジェトロなどと連携し、輸出関連セミナーや講演会の場を提供しています。

(Ⅳ) 情報提供

輸出関連情報やセミナー、商談会に関する情報を「メール配信」サービスで発信しています。

商品に顔を付ける

販路を拡大するためには、よいものを作ることはもちろんですが、消費者の目を引くことも大切です。「地域と第一次産業を、デザインの力で活性化すること」をミッションに活動する長岡淳一さんにデザインの役割について聞きました。

デザインによるブランディング

現在、生産者が農産物を自ら加工し、商品を店舗や消費者に直接販売することは珍しくありません。同じような商品が並ぶ売り場で、自身の商品を消費者に選んでもらうためには、「見た目」もとても大事です。なぜなら、人は物を買うとき、視覚による情報に大きく左右されるからです。といっても、ただかっこいいものにすればいい訳ではありません。

具体的には会社ロゴマーク、製品のパッケージデザインですが、これらは想いを伝え企業価値を高めるデザインにする必要があるでしょう。経営理念や目指す姿、強みなど考えのもとになったイメージを形に落とし込み、それを掲げる。言うなれば商品に「顔」を付けるということです。

一例を挙げましょう。福島県のブドウ生産者である伊藤隆徳さんは巨峰やシャインマスカットなど高級品種を枝付きで干しブドウに加工し始めました。原発事故での風評被害で生の果物が売れなくなった状況を打開しようと一念発起したのです。高級ブドウを手間暇かけて乾燥させた商品なので、贈答用に用途を絞ったブランディングに

切り替えました。パッケージは黒を基調に最高級の貼り箱で作り、ゴールドのロゴを入れました。

このデザインから伊藤さんの商品であることが一目で分かり、さらに「高級なこだわりの商品」ということが消費者に伝わって、知名度がうなぎ上りに向上しました。

可能性を開拓する

私は、デザインを一新したことで、思想や行動が変わった生産者、誇りを持ちはじめた従業員の方々を多く見てきました。前述の伊藤さんは、白いシャツに黒ベスト、蝶ネクタイ、長いギャルソンエプロンというソムリエさながらの姿で商談会に臨みました。干しブドウをバイヤーにアピールする自信に満ち溢れた姿は、以前農場を案内してくれたときとは全く違った印象です。伊藤さんは多くのメディアやバイヤーの目に留まり、国内外に新たな販路を開拓することができました。

デザインの真の力は「生産者や従業員の士気の向上」だと考えています。ぜひご自身の可能性を開拓するためにデザインを利用して下さい。

プロフィール

長岡淳一さん

株式会社ファームステッド代表取締役。1976年北海道帯広市生まれ。デザインで農業と地域を発信するモデルをつくる地域振興クリエイティブディレクターとして、日本全国各地からの依頼を受け農業のブランディングを進めている。6次産業化プランナー。著書に『農業をデザインで変える』（瀬戸内人）。

株式会社ファームステッド

2013年設立。北海道帯広市に本社。ブランディング、デザインなどを手掛ける。今年、東京都内に生産者27人からの出資と公庫資金を利用して生産者と消費者をつなぐレストラン「ファームステッドテーブル」を開店した。



長岡淳一さん、「ファームステッドテーブル」店内にて(左)。
「株式会社フルーツのいとう園」のロゴ、パッケージ

公庫本支店窓口のご案内

資金のご利用や経営に関するお問い合わせ・ご相談は、お近くの公庫本支店窓口へ。お気軽にどうぞ

店 名	郵便番号・住所	代表電話番号
札幌支店	〒060-0001 札幌市中央区北1条西2-2-2 北海道経済センタービル	011-251-1261
北見支店	〒090-0036 北見市幸町1-2-22	0157-61-8212
帯広支店	〒080-0010 帯広市大通南9-4 帯広大通ビル	0155-27-4011
青森支店	〒030-0861 青森市長島1-5-1	017-777-4211
盛岡支店	〒020-0024 盛岡市菜園2-7-21	019-653-5121
仙台支店	〒980-8454 仙台市青葉区中央1-6-35 東京建物仙台ビル	022-221-2331
秋田支店	〒010-0001 秋田市中通5-1-51 北都ビルディング	018-833-8247
山形支店	〒990-0042 山形市七日町3-1-9 山形商工会議所会館	023-625-6135
福島支店	〒960-8031 福島市米町6-6 NBFユニックスビル	024-521-3328
水戸支店	〒310-0021 水戸市南町3-3-55	029-232-3623
宇都宮支店	〒320-0813 宇都宮市二番町1-31	028-636-3901
前橋支店	〒371-0023 前橋市本町1-6-19	027-243-6061
さいたま支店	〒330-0802 さいたま市大宮区宮町1-109-1 大宮宮町ビル	048-645-5421
千葉支店	〒260-0028 千葉市中央区新町1000 センシティタワー	043-238-8501
東京支店	〒100-0004 千代田区大手町1-9-4 大手町フィナンシャルシティ ノースタワー	03-3270-9791
横浜支店	〒231-8831 横浜市中区南仲通2-21-2	045-641-1841
新潟支店	〒950-0088 新潟市中央区万代4-4-27 NBF新潟テレコムビル	025-240-8511
富山支店	〒930-0004 富山市桜橋通り2-25 富山第一生命ビル	076-441-8411
金沢支店	〒920-0919 金沢市南町6-1 朝日生命金沢ビル	076-263-6471
福井支店	〒918-8004 福井市西木田2-8-1 福井商工会議所ビル	0776-33-2385
甲府支店	〒400-0031 甲府市丸の内2-26-2	055-228-2182
長野支店	〒380-0816 長野市三輪田町1291	026-233-2152
岐阜支店	〒500-8844 岐阜市吉野町6-31 岐阜スカイウイング37西棟	058-264-4855
静岡支店	〒420-0851 静岡市葵区黒金町59-6 大同生命静岡ビル	054-205-6070
名古屋支店	〒450-0002 名古屋市中村区名駅3-25-9 堀内ビル	052-582-0741
津支店	〒514-0021 津市万町津133	059-229-5750
大津支店	〒520-0051 大津市梅林1-3-10 滋賀ビル	077-525-7195
京都支店	〒600-8009 京都市下京区四条通室町東入函谷鉾町101 アーバンネット四条烏丸ビル	075-221-2147
大阪支店	〒530-0057 大阪市北区曽根崎2-3-5 梅新第一生命ビルディング	06-6131-0750
神戸支店	〒650-0044 神戸市中央区東川崎町1-7-4 ハーバーランドダイヤニッセイビル	078-362-8451
奈良支店	〒630-8115 奈良市大宮町7-1-33 奈良センタービルディング	0742-32-2270
和歌山支店	〒640-8158 和歌山市十二番丁58	073-423-0644
鳥取支店	〒680-0833 鳥取市末広温泉町723 鳥取県JA会館	0857-20-2151
松江支店	〒690-0887 松江市殿町111 松江センチュリービル	0852-26-1133
岡山支店	〒700-0904 岡山市北区柳町1-1-27 太陽生命岡山柳町ビル	086-232-3611
広島支店	〒730-0031 広島市中区紙屋町1-2-22 広島トランヴェールビルディング	082-249-9152
山口支店	〒753-0077 山口市熊野町1-10 ニューメディアプラザ山口	083-922-2140
徳島支店	〒770-0856 徳島市中洲町1-58	088-656-6880
高松支店	〒760-0023 高松市寿町2-2-7 いちご高松ビル	087-851-2880
松山支店	〒790-0003 松山市三番町6-7-3	089-933-3371
高知支店	〒780-0834 高知市堺町2-26 高知中央ビジネススクエア	088-825-1091
福岡支店	〒812-0011 福岡市博多区博多駅前3-21-12	092-451-1780
佐賀支店	〒840-0816 佐賀市駅南本町4-21	0952-27-4120
長崎支店	〒850-0057 長崎市大黒町10-4	095-824-6221
熊本支店	〒860-0801 熊本市中央区安政町4-22	096-353-3104
大分支店	〒870-0034 大分市都町2-1-12	097-532-8491
宮崎支店	〒880-0805 宮崎市橋通東3-6-30	0985-29-6811
鹿児島支店	〒892-0821 鹿児島市名山町1-26	099-805-0511
本店	〒100-0004 千代田区大手町1-9-4 大手町フィナンシャルシティ ノースタワー	0120-154-505 (お客さま専用) 03-3270-4116

アグリ・フードサポート (2019 秋号)

※お問い合わせ先

株式会社政策金融公庫 農林水産事業本部 情報企画部

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-4 大手町フィナンシャルシティ ノースタワー

TEL 03-3270-2268 Email anjoho@jfc.go.jp

印刷/刷第一印刷所

